
天使の異世界旅行記

K . K .

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使の異世界旅行記

【Nコード】

N0648Z

【作者名】

K・K・

【あらすじ】

はじめて投稿するのではありませんがその時はどしどし意見をお聞かせください。

プロローグ(前書き)

はじめましてK・K・です。はじめての投稿なのでミスなどがあったときは指摘してください。

プロローグ

今俺は真っ白な空間にいた。どこまで見回しても白い色。どうしてこんなところにいるのかを説明するには少し時間を巻き戻す必要がある。

数時間前

今日は待ちに待ったゲームの発売日。この日をどれほど待ち望んだことか！

とりあえず物は確保できたので急いで帰るか！

そう思っただけを向いたら小さな女の子が赤信号なのに飛び出してしまった。

俺は急いで女の子の側に行き女の子を突き飛ばした。

そのあと気が付けばこの真っ白な空間に居たってわけだ。

再び真っ白な空間

あーこの状況はあれだな神様が間違っただけで殺してしまったから転生させてくれるとか言うやつじゃないのかな？

「よく知っているな。大まかには合っておるな。正確にはわしのもとに来ていた見習いの一人が君の命に関わるものにお茶をこぼしてしまっただけだ。」

これまたよくある理由じゃないか。

「いや、あまりあつては不味いんじゃないか。これからお主には転生してもらおう。さらに今回は完全にこちらのミスなので希望する“も

の”を用意しよう。」

なんでもいいのか？

「あまりにも危険なもの出ない限りじゃがの。まあお主はそのようなもの頼まぬと思うがの。」

じゃあ、そらのおとしものに出てくるエンジェロイドの武器とイカロスの羽。それを扱えるだけの能力を持つ体。あと動物と話すことができる能力。どんな物も作ることのできる能力。最後にナンバースのISが欲しい。

「ほう。そんなのでいいのかの？わしはもっと無限の剣製や王の財宝などを予想していたなじやがな。」

意外と知っているんだな。アニメとかマンガとか。

「意外と神様って暇なんじゃ」

そーなのかー

「お主実は聞く気ないじゃろ。」

そーなのかー

「まあいいわい。まあ予定していたよりもだいぶ容量が余ってしまったわい。まあこちらで勝手に埋めておくからの。一様副作用がないものにしておくから心配するな。」

わかった。まかせるよ

「それでは幸せにな。」

ああまたな。できればまた合わないことを祈っているがね。

そうして神様が作った扉から転生先に向かって出ていった。

第1話 いきなり会っちゃたよ

扉を抜けるとそこは一面森、森、森。

どうやらここは森の中らしい。しかも辺りも気配を探ってみても人の気配がない。

うん！都合がいいのでこの際神様に頼んでいたものの確認をしておこうと思う。

とりあえず試しに手鏡を手のひらに創ってみる。

ええ！！なにこれ！俺の顔がまんまイカロスになってる！！こんな頼んでないのに……。

ま、まあこれはこれでありだな。きつと…うん…。

よし！そこは気にしない方向で！！

この後創造の能力でいろいろやってみた。

そうしたら出来たよ聖王のゆりかご。

さすがにできるとは思っていなかったので急いでゆりかごを消す。

これはさすがに気づかれたと思うので飛行試験を兼ねて背中の羽を使って飛んで逃げる。

しかし少し遅かったのか会っちゃいましたよ。

管理局の白い悪魔に金色の夜叉に。どうしよう……。

S i d eなのは

機動六課での初出勤で撤収し始めようとしたときにいきなり現れた巨大な船をフェイトちゃんと一緒に確認しに行ったらそこには背中から羽の生えた綺麗な女の人がいた。

なのは

「その人動かないで。今さっきここにあった船について聞きたいことがあるから付いてきてくれないかな。」

フェイト

「抵抗はできればしないでください。攻撃したくないので。」

???

「わかりました。飛んでもいいですかそうすればあなた達についていけるので。」

なのは

「いいですよ。近くにへりが止まっているのでそこまで付いてきて下さい。そこから隊舎に行きますので。」

とりあえず話を聞いてみなくちゃ

第2話 物語開始

Sid eイカロス(仮)

機動六課隊舎に連れていかれた後はどうしてあそこにいたのかやあの船はなんなのかなどの取り調べを受けた。

その結果機動六課で保護されることとなった。

開放されたあとはアニメで気になっていた管理局の闇についてハツキング(もちろん犯罪)を仕掛けてこちらに情報を流すウイルスを仕掛けました。

そしたら出てくる出てくる黒いものが。

しかも百や二百じゃすまない。

よかった。なのは達に取り調べを受けたときに本当の情報を流さなくて。もし、本当のことを話していたら一体どうなっていたことか。

よし。これではつきりした。管理局は有ってはいけない。

と言うよりもまず三権分立も出来ていないものがある時点でおかしい子供を働かせているのもおかしい。

これは早急にジェイル・スカリエッティに会う必要がある。

まずは、ダイオラマ魔法球を創って修行及び道具の作成を始めなくては。

まっつてやがれ管理局……。

S. i. d. e はやて

はやて

「さて、今回保護したあのイカロスさんの事やけどなども隠し事がありそうなんよ。」

なのは

「そうなの？はやてちゃん。」

はやて

「ああ、間違いなくな。だってうまい話過ぎやないか。あんな大きな船が現れた所にいた人が無関係なはずないやないか。」

フエイト

「そうだね。そういえば今イカロスさんは？」

はやて

「今は監視カメラ付きの客室に居てもらってるよ。今後は訓練を見てもらったり街に出てもらってこの世界に慣れてもらわないかな。もちろん人をつけてな。」

なのは

「じゃあ、明日早速訓練を見てもらうことにしようか。」

はやて

「そらええ考えや。そうしようか。」

フェイト

「とりあえず私はシャーリー達と一緒に今回出てきた船に関して調べてみるね。」

はやて

「頼むなフェイトちゃん。」

なのは

「無理しないでね。」

フェイト

「うん。大丈夫。それじゃあいつてくる。」

そして物語は進み始める。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0648z/>

天使の異世界旅行記

2011年12月16日00時53分発行